



TITLE:

<特集>東南アジアを超えて：ベトナム=韓国関係再考：歴史的・地域的視点から

AUTHOR(S):

小泉, 順子; 伊藤, 正子

CITATION:

小泉, 順子 ...[et al]. <特集>東南アジアを超えて：ベトナム=韓国関係再考：歴史的・地域的視点から. 東南アジア研究 2010, 48(3): 235-241

ISSUE DATE:

2010-12-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/144302>

RIGHT:

〈特集〉東南アジアを超えて：ベトナム＝韓国関係再考

——歴史的・地域の視点から——

序

小 泉 順 子*・伊 藤 正 子**

Reconsidering Relations between Vietnam and Korea: Historical and Regional Perspectives beyond Southeast Asia

KOIZUMI Junko* and ITO Masako**

Abstract

After political democratization in South Korea and the Doi Moi reforms of Vietnam started and proceeded concomitantly from the late 1980s, South Korea and Vietnam formally resumed diplomatic relations in 1992, and have been rapidly strengthening their political, economic, as well as cultural ties ever since then. This special issue will look into various aspects of relations between South Korea and Vietnam from both contemporary and historical perspectives; by doing so, it intends to cast a new light on the complex layers of dynamism in East and Southeast Asian regions from a perspective that may not be reduced solely to China and U.S. contexts. Moreover, three of the articles included in this issue were presented at a joint-symposium titled “Interdependency of Korea, Japan and Southeast Asia: Migration, Investment and Cultural Flow,” organized by the Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University and the Korean Association of Southeast Asian Studies, and held at Gyeongsang National University, Jinju City, in June 2009. Considering the growing interest in Southeast Asian Studies in South Korea, we hope that this issue will contribute to further collaboration between Korean, Japanese and Southeast Asian scholars working in the field of Southeast Asian Studies.

1980 年代末以降民主化が進められた韓国と、同時期「ドイモイ」を掲げて対外開放・市場経済導入政策を進めたベトナムは、1992 年に国交を回復し、以来、急速に関係を深めている。本特集では、冷戦後、グローバル化といわれる今日展開する両者の関係を現状と歴史の両面から

* 京都大学東南アジア研究所；Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University
e-mail: jkoizumi@cseas.kyoto-u.ac.jp

** 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科；Graduate School of Asian and African Area Studies,
Kyoto University, 46 Shimoadachi-cho, Yoshida Sakyo-ku, Kyoto 606-8501, Japan

検討し、いわゆる中国やアメリカの影響という文脈に必ずしも収斂しきれない周縁相互のつながりという視角から、東アジア・東南アジア地域のダイナミズムと、こうした動きが東南アジア研究に提起する課題を考える一助としたい。

グローバル化の顕著な現象として、ヒト、カネ、モノの移動の増大が指摘される。ベトナムでは1980年代、労働協力協約に基づき旧ソビエトおよび東ヨーロッパへ20万人を超える労働者が派遣されたのち、1990年代に入ると東アジア、東南アジア、中東諸国への派遣が増大し、その数は2006年には40万人を超えたといわれる。2006年時点における主たる派遣先と人数をみれば、台湾へは約9万人、マレーシアは約10万人にのぼり、それについて韓国への派遣も5万人を数えるにいたっている〔本特集所収崔論文；Dang Nguyen Anh 2007; 2008; 遠藤 2008〕。また2010年9月、ベトナムと韓国は労働輸出協力を2年間延長するMOUに署名し、この時点で約5万5千人のベトナム人労働者が滞在していると報じられ、¹⁾ 不法滞在者も含めればその滞在者数は約10万人にのぼると推定されている〔本特集所収崔論文〕。

こうした動きは、労働力の輸出を外貨獲得手段と位置づけてそれを積極的に進めようとするベトナム政府の政策的措置に支えられる一方、1990年代以降、労働力不足、少子化に危機感を抱いた韓国側の施策にも後押しされている。韓国では2003年、研修制度に代わる「雇用許可制」が制定されて翌年より施行され、非専門就業者の受け入れ体制が整えられると、外国人労働者の数が急激に増大した。並行して国際結婚も急増し、2005年には全婚姻数に占める国際結婚の割合は13%を超え、2006年も11.6%に上った。2006年に韓国で婚姻登録した外国人妻の数は約3万人であったが、うち半数（1万4600人余）は中国国籍（朝鮮族）であったものの、ベトナム人はそれについて多く1万人を超え、かつ顕著な増加傾向を示していた〔Kim 2009; Bélanger *et al.* 2010; 白井 2008; Amnesty International 2009; 本特集所収崔論文〕。しかしその一方で、種々のトラブルも生じ、2007年には「在韓外国人処遇基本法」が制定され、外国人の人権保護により踏み込んだ姿勢が示される〔白井 2008; Kim 2007; Dang Nguyen Anh 2008〕。

両国の関係の緊密化は他の領域でも進み、特に海外直接投資や「韓流」の輸出などにおいて韓国の積極性が目を引き、2009年に韓国は件数ベースでベトナムに対する最大の投資国となった〔石田・藤田 2006; 本特集所収李論文；Tran 2009〕。そして、その「韓流」の中身である映画やテレビドラマにおいても、「ベトナム」要素がしばしば現れる。具体的には、正面から描かれることは少ないものの、ベトナム帰りの元兵士という設定があったり、あるいは「ベトナム戦争」に関する断片がセリフに取り入れられていたり、またベトナム戦争に参戦した兵士とベトナム人女性の間にできた子供（ライダイハン）や、現代のベトナム人花嫁が重要な役回りを

1) <http://english.molisa.gov.vn/news/viewdetail/tabid/339/newsid/51603/seo/Vietnam-and-South-Korea-signed-the-extension-of-MOU-on-labour-export-cooperation/language/en-US/Default.aspx#>, September 15, 2010 (最終アクセス日 2010年9月26日)

担っていたりする。韓国にとってベトナムは、他の東南アジア諸国と比べると、歴史的にも現在においても、際立って関係が深い国であると認識されている。またベトナムから見た韓国の存在感も非常に大きく、「韓流」の影響でその印象も様変わりした。1990年代前半までは、ベトナム戦争時代の「残虐」な印象と、初めての本格的な海外進出先として、国交回復後ベトナムにやってきた韓国企業で多発したベトナム人労働者に対する不当な扱いに反発する感情により、韓国に対する評価は低かった。しかし、「韓流」を通じて、韓国社会や日常生活を具体的にイメージでき、韓国人が何を考えて暮らしているのか、人間としての「顔」が見えるようになったことで、一般の人々の間にあった「嫌悪感」は一気に「親近感」と「あこがれ」に変わっていった。一般のベトナム人にとって、日本人のイメージがいまだに「おしん」を越えておらず、「日本」と聞いて工業製品しか頭に浮かんでこないのとは対照的である。

その中で、過去における両国の関係についても再評価の動きがみられ、それまでタブーとされていたベトナム戦争における韓国軍による民間人に対する残虐行為に関する事実の掘り起しが行われ、経済的利益の評価も含めたベトナム戦争の再検討が進められた〔本特集所収伊藤論文; Armstrong 2001〕。伊藤論文は、韓国・ベトナム双方の政治体制、外交の方針、地政的位置づけの相違によって、戦争の記憶をめぐる生起する反応や議論が異なっている複雑な状況を明らかにする。また、過去の事実に向き合おうとする韓国NGOの活動によりベトナムにおいて赦しと和解が生まれつつあるという事態が、日本の「過去」をめぐる問題と無関係ではないという指摘は、韓国併合100年を迎えた現在、一層重みをもって受けとめられねばならないだろう〔cf. 金 2005〕。²⁾ 加えて、本特集に所収される尹論文が明らかにする金永鍵の存在は、朝鮮半島に対する日本の支配と当時の日本におけるベトナム研究が無縁ではなかったことを示している。金の業績が杉本直治郎等日本人による東洋学研究的陰におかれて知られてこなかったとすれば、その意味も改めて問われねばならないであろう〔cf. 藤原 2008a; 2008b〕。

朝鮮とベトナムはともに中国に隣接する周縁に位置し、歴史的に中国をとりいれつつ、中国からの自立を図りながら自己形成してきた〔岩月 2005; 古田 1995〕。本特集に所収される清水論文が示す長期にわたる両者の交流は、ここでとりあげた二国間のみならず、今日「東アジア」と「東南アジア」に分けられる海域アジア・陸域アジアの諸地域が、歴史的に、中国とその周縁地域のつながりを一つの軸とする広域地域として存在してきたことを改めて想起させる〔桃木 2008; cf. Cho 1995; 2006〕。また、このような歴史世界のなかで培われたつながりのうえに現在における両国の関係の深まりを重ねたとき、グローバル化により「東南アジア」と「東アジ

2) ベトナム戦争におけるアメリカの対ゲリラ戦略、およびそこで「アメリカの戦争」を戦った韓国軍と1930年代以降満州においてゲリラと戦った日本軍との関係性を検討課題として指摘する研究もあり、冷戦期のアジアにおける戦争をより歴史的に検証する必要性も提起されている〔Armstrong 2001〕。同時に、同じくアメリカに協力してベトナム戦争に派兵したタイなどにも問題を投げかけるであろう〔Ruth 2010〕。

ア」との境界が溶解しつつある中で、アジアにおける日本の位置づけや自己認識も再考・再定義を余儀なくされるであろう状況も浮かび上がるのではないか。

さて「韓流」の輸出や韓国企業のベトナムへの投資の増加にともない、ベトナムにおける韓国語学習や韓国文化の普及、韓国研究の振興も進められた。1992年に外交関係が成立した直後、1993年にはハノイの人文社会科学大学（現ベトナム国家大学ハノイ校）に、翌94年にはホーチミン市の人文社会科学大学（現ベトナム国家大学ホーチミン市校）に、そして1995年にはホーチミン市外国語・情報大学に、あいついで韓国研究専攻（Department of Korean Studies）が設立された。その後も韓国研究の場は拡大し、2005年には9つの大学が韓国語のコースを提供し、大学の外における韓国語学習人口の増大も指摘される。さらに、ベトナムにとどまらず、「韓国研究のグローバル化」をめざして、他の東南アジア諸国においても、韓国語教育や韓国研究が積極的に推し進められている点も注目される [Choi and Suh 2006; Tran 2004; Do 2006]。こうした動きは冷戦後の経済のグローバル化が、いわゆるナショナリズムのグローバル化と表裏一体であることも示唆しているが [Lee *et al.* 2005; Ngo and Choi 2005]、同時に、東アジアを含めた東南アジア研究をめぐる学術的地図の変化を予感させる韓国研究のグローバル化と韓国における東南アジア研究の振興により、日本の東南アジア研究の位置づけはいかに変わっていくのかという問題も提起されよう。

京都大学東南アジア研究所は、2009年6月に、韓国東南アジア学会と初めて共同シンポジウムを開催し、そこで近年の東南アジアに対する関係の深化と関心の高まりに支えられた活気あふれる韓国の東南アジア研究にふれることとなった。なかでもベトナムへの関心の高さは顕著であり、ここに寄稿していただいた崔^{チェ}氏、尹^{ユン}氏以外にも多くの研究者によって、歴史から現在まで、さまざまなトピックについて報告がなされた。本特集は、当研究所が共催したシンポジウムの成果を、学術論文として公刊し、東アジアにおける東南アジア研究者との学術交流を一層実のあるものとしていく試みでもある。

なお本特集に収められた各論考の要旨は、以下のとおりである。

1. 「韓国へのベトナム人移住労働——政策、社会資本、仲介業および連鎖移住」

チェ・ホリム（崔昊林・Choi Horim, Sogang University 西江大学東アジア研究所）（李美智 訳）
韓国は2004年に「雇用許可制度」を施行し、15カ国とMOUを結んで海外からの労働者を受け入れている。中でもベトナムからの労働者は、送り手側のベトナムにおける諸条件にも支えられ、非専門就業を中心に、急速に増加している。本稿では、背景となる政策的な措置を、ベトナム側を中心に紹介し、またベトナムにおける村レベルのフィールド調査に基づき、移民労働を送り出す側の動機、経済的状況等の背景を明らかにする。

2. 「韓国政府による対東南アジア『韓流』振興政策——タイ・ベトナムへのテレビ・ドラマ輸出を中心に」

イ・ミジ（李美智・Lee Miji, 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）

韓国では、1998年の金大中大統領による「文化大統領」宣言を契機とし、国策として文化コンテンツ産業の振興と輸出に取り組んできた。本稿では、近年東南アジア諸国にみられる韓流ブームについて、韓国政府による文化輸出振興策に着目しながら、その背景を明らかにする。具体的には、韓国がアジアに向けて韓流拡大に至った背景・経緯と、具体的な政策内容を分析し、それが東南アジアにおける韓流の様相とどのように関わっているのかを明らかにする。また、韓国政府の政策に後押しされた韓流が、実際に東南アジアではどのように受け入れられているかを、タイとベトナムを事例に検討する。

3. 「韓国軍のベトナム派兵をめぐる記憶の比較研究——ベトナムの非公定記憶を記憶する韓国NGO」

伊藤正子（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）

韓国は、アメリカへの軍事支援として、1964年8月から1972年に至る8年5カ月の間に、累計32万5千人をこえる兵士をベトナムに派兵した。本稿では、ベトナム戦争に参戦した韓国軍による民間人虐殺事件の記憶のされ方について論じる。被害を受けたベトナムでは、国家への貢献が明瞭でなかった人々の悲劇を国家レベルの公定記憶としない一方で、現在の韓国では、国内から大きな反発を受けながらも、NGO関係者を中心に、虐殺事件の掘り起こしが進んでいる。両者の対比から、「負の記憶」を含む戦争の記憶の継承の多様なあり方について考察する。

4. 「1930-40年代の金永鍵とベトナム研究」

ユン・デヨン（尹大栄・Youn Daeyeong, Inha University 仁荷大学韓国学研究所）（李美智 訳）

本稿は、『印度支那と日本との関係』（富山房、1943）など日本語の著作でも知られる金永鍵の学問的履歴と特徴、およびその生涯を明らかにする。1930年代にはハノイのフランス極東学院を、その後1940年代前半には東京を拠点にし、さらに帰国後も論壇で活動する過程で、*BEFEO* や『民族学研究』、および『震檀学報』等に発表された金の著作を丹念に掘り起こし、ベトナム史研究から次第に東南アジア史へと視野を広げていった金の研究活動の軌跡を検討し、かつ1945年以降、政治的状况から遮断されたその学術の現代的意味を問いかける。

5. 「北京におけるベトナム使節と朝鮮使節の交流——15世紀から18世紀を中心に」

清水太郎（鳥取県立公文書館）

歴代中国王朝には、朝貢という名目で様々な周辺王朝・地域から使節が訪れている。特に漢字を公用文字としたベトナム、朝鮮半島の諸王朝は、中国への朝貢の回数も琉球王国を

除くと他の王朝・地域と比較すると格段に多く、使節に参加した当事者による記録も群を抜いて多い。両使節間の交流は14世紀から19世紀にかけて行われていることがわかるが、両国と中国との関係は決して一義的なものではなく、外交関係も時代とともに変化する。本稿では、北京という両王朝の使節にとって異国で行われた交流の変化や意義について考察する。

参考文献

- Amnesty International. 2009. *Republic of Korea: Briefing to the UN Committee on Economic, Social, and Cultural Rights, 43rd Session, November 2009*. London: Amnesty International.
- Armstrong, Charles K. 2001. America's Korea, Korea's Vietnam. *Critical Asian Studies* 33(4): 527-540.
- Bélanger, Danièle; Lee, Hye-Kyung; and Wang, Hong-Zen. 2010. Ethnic Diversity and Statistics in East Asia: "Foreign Brides" Surveys in Taiwan and South Korea. *Ethnic and Racial Studies* 33(6): 1108-1130.
- Chakandang, Charan; and Thantawanit, Tassanee. 2005. The Korean Language Teaching and Korean Studies in Thailand in 2005. *International Review of Korean Studies* 2(1): 159-166.
- Chang, Kyung-Sup. 2004. Defamiliation in South Korea: The Demographic Dimension of Compressed Modernity. *International Review of Korean Studies* 1(1): 117-138.
- Cho, Hung-Guk. 1995. Early Contacts between Korea and Thailand. *Korea Journal* 35(1): 106-118.
- . 2006. Siamese-Korean Relations in the Late Fourteenth Century. *Journal of the Siam Society* 94: 9-25.
- Choi, Kim Yok; and Suh, Chung-Sok. 2006. Korean Studies in Southeast Asia: Networks for Today and Tomorrow. *International Review of Korean Studies* 3(1): 135-143.
- Dang, Nguyen Anh. 2007. Labour Export from Viet Nam: Issues of Policy and Practice. Paper for presentation at the 8th International Conference of Asia Pacific Migration Research Network, Fuzhou, China, 25-29 May 2007.
- . 2008. *Labour Migration from Viet Nam: Issues of Policy and Practice*. ILO Asian Regional Programme on Governance of Labour Migration, Working Paper No. 4. Bangkok: ILO Regional Office for Asia and the Pacific, Asia; Asian Regional Programme on Governance of Labour.
- Do, Thu Ha. 2006. Perspectives on Korean-Vietnamese Co-operation and Korean Studies. *International Review of Korean Studies* 3(1): 119-134.
- Ida Sundari Husen; and Bachrun, Christine T. 2006. The Undergraduate Korean Studies Program in the University of Indonesia and the Continuity of Korean Studies in Indonesia. *International Review of Korean Studies* 3(1): 107-118.
- Jones, Gavin; and Shen, Hsiu-hua. 2008. International Marriage in East and Southeast Asia: Trends and Research Emphases. *Citizenship Studies* 12(1): 9-25.
- Kim, Andrew Eungi. 2009. Global Migration and South Korea: Foreign Workers, Foreign Brides and the Making of a Multicultural Society. *Ethnic and Racial Studies* 32(1): 70-92.
- Kim, Hyun Mee. 2007. The State and Migrant Women: Diverging Hopes in the Making of 'Multicultural Families' in Contemporary Korea. *Korea Journal* 47(4): 100-122.
- Kim, Nora Hui-Jung. 2008. Korean Immigration Policy Changes and the Political Liberals' Dilemma. *International Migration Review* 42(3): 576-596.
- Kong, Dongsung; Yoon, Kiwoong; and Yu, Soyung. 2010. The Social Dimensions of Immigration in Korea. *Journal of Contemporary Asia* 40(2): 252-274.
- Kwan, Tai-Hwan; and Oh, Myung-Seok, eds. 1998. *Asian Studies in the Age of Globalization*. S.N.U. International Area Studies Series 15. Seoul: Seoul National University Press.
- Lee, Hye-Kyung. 2008. International Marriage and the State in South Korea: Focusing on Governmental Policy. *Citizenship Studies* 12(1): 107-123.
- Lee, Jin-Seok; Kwon, Seung-Ho; and Choi, Tae Young. 2005. The Korean Wave and Cultural Proximity in Southeast Asia. *International Review of Korean Studies* 2(1): 7-44.

- Lee, Yoonkyung. 2009. Migration, Migrants, and Contested Ethno-Nationalism in Korea. *Critical Asian Studies* 41(3): 363–380.
- Lumsdaine, David; and Schopf, James C. 2007. Changing Values and the Recent Rise in Korean Development Assistance. *The Pacific Review* 20(2): 221–255.
- Md. Nasrudin; Md. Akhira; and Tan Soo Kee. 2007. Education and Research on Korean Studies in Malaysia. *International Review of Korean Studies* 4(1): 119–135.
- Ngo, Van Le; and Choi, Song-Wha. 2005. Korean Studies in Southeast Asia and Oceania: Strategic Cooperation and Development in Research and Education. *International Review of Korean Studies* 2(1): 167–176.
- Nožina, Morslov. 2010. Crime Networks in Vietnamese Diasporas. The Czech Republic Case. *Crime, Law and Social Change* 53: 229–258.
- Ruth, Richard A. 2010. *In Buddha's Company: Thai Soldiers in the Vietnam War*. Honolulu: University of Hawai'i Press.
- Ryu, Dae-yeong. 2004. Korean Protestant Churches' Attitude towards War: With a Special Focus on the Vietnam War. *Korea Journal* 44(4): 191–222.
- Suh, Chung-Sok. 2005. The Korean Cultural Industry and Korean Studies. *International Review of Korean Studies* 2(1): 1–6.
- Tran, Ngoc Them. 2004. Korean Studies in Vietnam. *International Review of Korean Studies* 1(1): 161–176.
- . 2007. Korean Culture Studies at the University of Social Sciences and Humanities, Ho Chi Minh City: Theoretical Foundations [A Research and Teaching Note]. *International Review of Korean Studies* 4(1): 137–145.
- Tran, Tien Quang. 2009. Sudden Surge in FDI and Infrastructure Bottlenecks: The Case in Vietnam. *ASEAN Economic Bulletin* 26(1): 58–76.
- 明石純一. 2006. 「外交資源としての外国人労働者——台湾の事例分析」『国際政治』146: 172–186.
- 阿部 誠. 2002. 「韓国企業の海外直接投資——電子産業における拡大・調整過程を中心に」北村かよ子(編)『アジアNIESの対外直接投資』経済協力シリーズ No.197, 27–73 ページ所収. アジア経済研究所.
- 石田暁恵; 藤田麻衣. 2006. 「国際統合過程のベトナムの工業化」天川直子(編)『後発ASEAN諸国の工業化——CLMV諸国の経験と展望』研究双書 No.553, 141–188 ページ所収. アジア経済研究所.
- 岩月純一. 2005. 「近代ベトナムにおける『漢字』の問題」村田雄二郎; C・ラマール(編)『漢字圏の近代——ことばと国家』131–147 ページ所収. 東京大学出版会.
- 遠藤 聡. 2008. 「東南アジアの海外労働者問題と外国人労働者問題——フィリピン・ベトナム・シンガポールの事例」国立国会図書館・調査および立法考査局(編)(2008)所収.
- 奥島美夏. 2008. 「序説 インドネシア・ベトナム女性の海外進出と華人文化圏における位置づけ」『異文化コミュニケーション研究』20: 21–42.
- 片倉 稔. 2008. 『朝鮮とベトナム 日本とアジア ひと・もの・情報の接触・交流と対外観』福村出版.
- 金 榮鎬(Kim, Yeongho). 2005. 「韓国のベトナム戦争の『記憶』——加害の忘却・想起の変容とナショナリズム」『広島国際研究』11: 1–30.
- 国立国会図書館・調査および立法考査局(編). 2008. 『総合調査 人口減少社会の外国人問題』(平成20年度刊行 <http://www.ndl.go.jp/jp/data/publication/document2008.html>)
- 白井 京. 2008. 「韓国における外国人問題——労働者の受け入れと社会統合」国立国会図書館・調査および立法考査局(編)(2008)所収.
- 蓮田隆志. 2005. 「17世紀ベトナム鄭氏政権と宦官」『待兼山論叢 史学篇』39: 1–23.
- 早瀬保子. 2004. 『アジアの人口——グローバル化の波の中で』アジアを視る眼 No.105. アジア経済研究所.
- 藤原貞朗. 2008a. 「第二次世界大戦期の日本と仏領インドシナの『文化協力』: アンコール遺跡の考古学をめぐって(前編)」『茨城大学人文学部紀要 社会科学論集』45: 107–127.
- . 2008b. 「第二次世界大戦期の日本と仏領インドシナの『文化協力』: アンコール遺跡の考古学をめぐって(後編)」『茨城大学人文学部紀要 社会科学論集』46: 21–40.
- 古田元夫. 1995. 『ベトナムの世界史——中華世界から東南アジア世界へ』東京大学出版会.
- 宮本謙介. 2002. 「アジア開発最前線の労働市場 (6): ベトナム, ホーチミン都市圏の事例分析」『経済学研究』52(2): 41–61.
- 桃木至朗(編). 2008. 『海域アジア史研究入門』岩波書店.